

山田みやこの活動報告

令和6年3月11日(月)

国際セミナー「どうなる！EUの全面的PFAS禁止」オンライン参加

講師 ヨナタン・クレイマーク博士

有機フッ素化合物 (PFAS)による地下水、水道水の汚染が日本全国各地で見つかり、注目を浴びている。EUでは1万種と言われる有機フッ素化合物 (PFAS)の使用を禁止する法案を審議中。2025年に採択される可能性がある。しかし、日本はPFASの毒性は不明な点が多いとして、従来の一ヶ月許容摂取量を維持する評価案をまとめた。日本と海外の対策に大きな差が開きそうだ。各国の新しい取り組みを学び、真剣に向き合ったリスク評価にすべき。

PFASの特性は

- ①難分離性
- ②移動性 (水溶性)
- ③生物蓄積性
- ④内分泌活性
- ⑤長距離移動 (広がる)

そのために害が広がる前に規制、禁止の行動を取るべき。

PFASの使用を減らす道のりは長いが、多くの用途で代替品の利用を可能にする法制化を利害関係者が求めている。消費者・労働者の安全性向上のチャンスであり、産業界にとって安全で新しい解決策を提供する絶好の機会になる。

※クレイマーク博士が警告するように、日本は経済的リスクから距離をおかず、真剣に向き合ったリスク評価を行うべきと思う。

お話しいたします。ぜひご参加ください。

3月11(月)

18:00 開始 20:00 終了

参加費：無料

逐次通訳付き

オンラインでの開催

参加申込/

QRコードまたは

下記URLより

ご登録を

<https://x.gd/ILDbx>



ヨナタン・クレイマーク博士

Jonatan Kleimark PhD

ChemSec (The International Chemical Secretariat)

シニア・ケミカル・ビジネス・アドバイザー

共催：有害化学物質から子どもを守るネットワーク(子どもケミネット)
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議(JEPA)

事務局：〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4F

■本件に関するお問い合わせは kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp または03-5875-5410

このセミナーは2023年度地球環境基金の助成を受けて開催されます。